

広島大学病院

Hiroshima University Hospital Medical-Dental Liaison News

No. **11**
2007.10

ニュース



インタビューしました!



岡田守人教授

この4月に広島大学病院の腫瘍外科(専門は呼吸器外科)の教授として就任された岡田守人先生にインタビューしました。岡田先生は、肺がんの「胸腔鏡手術」では日本のトップクラスの実績を持ち、その手術方法が究極の*低侵襲を追及した質の高い手術として注目を集めており、今回はその方法についてご紹介します。

肺がんは、X線CTなどによる診断技術のめざましい進歩で、早期発見が可能となり、手術で完治するケースも増えつつある。この進歩は、手術法にも影響を与え低侵襲がより追求されるようになり、肋骨の間を小さく2箇所切開し、胸腔内に挿入した内視鏡を使って肺がんの手術を行う「ハイブリッドVATS」と命名し世界的に認められている。岡田式胸腔鏡手術はその代表的な方法である(写真1参照)。

(VATS=Video-Assisted Thoracic Surgery)

*低侵襲=手術は皮膚を切開してある組織、病変部を処置することですが、そのこと自体が身体に負担を与えます。その負担をより小さくすることを低侵襲といえます。

肺がん手術 肺がんに対する手術法は、表1に示す通りである。(左へ進むほど患者負担軽減)

表1

肺形状と切除部	縮小手術		標準手術	拡大手術
	部分	区域	肺葉	肺全摘
術式	縮小手術		標準手術	拡大手術
切除部	部分	区域	肺葉	肺全摘
リンパ節転移確認	不可	可	可	可
切除割合(%)	< 10		20 - 40	50

肺がん手術は、1950年代に確立した。当初は拡大手術で片肺を全摘していたが、現在は肺葉切除が一般的であるものの、流れとしては縮小手術に向かっている。岡田教授は、「がんを100%完治させた上で、できるだけ肺を残すことが重要。目標はいかに肺を小さく切つてがんを完全切除できるかの追求である」と指摘する。「部分切除」と「区域切除」を「縮小手術」というが、「区域切除」はリンパ節へのがん転移有無を確認できるが、「部分切除」はがんが出来た周囲だけを切除するもので、「部分手術」は簡単ながらリンパ節が評価できないことが最大の欠点。



写真1
通常は4~6cmの操作創および内視鏡を挿入する1cmの創で肺がん手術を行います。



“ハイブリッドVATS”の特長

- 従来、CT検査などで手術前にがんの進行度を評価し、リンパ節への転移の可能性を予測していた。肺を切除する範囲を決める指標として、岡田教授はPET-CTにおけるSUV-腫瘍サイズ(図1)を考案した。即ち、がんの転移、浸潤の境界はサイズ2cm、SUV1.5付近にあり、これ以下ならがんの転移、浸潤の可能性が低いと判断される。実際は総合的に判断して、より安全な術式を選ぶことになるそうです。
- 切開は2箇所、約1cmの穴から胸腔鏡を挿入、4~6cmの穴から患部直視し、手術操作をする。

つまり、岡田教授は胸腔鏡を利用するが、必ず目視で直接確認し、手術の「質」が落ちないように、必要なら筋肉・肋骨を切断することなく切開部を躊躇なく広げ、完璧な手術を実践する、と語られた。

以上1)2)のポイントを有する岡田式ハイブリッドVATSは、手術を待つ患者さんにとってはメリットの大きい選択肢であり、心強い味方になるでしょう。

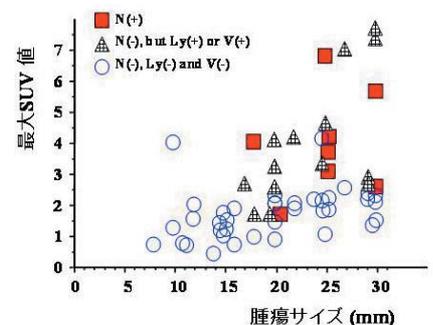


図1
SUV(標準摂取率)=組織1mg放射能/体重1gの放射能
出典:岡田「The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery, June2007」

「南極の氷」贈呈式

平成19年8月7日入院棟カンファレンスルーム2において、「南極の氷」贈呈式が行われました。この南極の氷は、第48次南極地域観測に協力した海上自衛隊砕氷艦「しらせ」が持ち帰り、広島大学病院に入院する子どもたちを元気づけようと、自衛隊広島地方協力本部から贈られました。南極から持ち帰った何万年前の雪と空気を含んだ氷を自衛隊広島地方協力本部の佐藤信彦本部長と一緒に子どもたちにも持ってもらいました(写真1)。

何万年前の氷を前にする代表の二人に「さわってみてごらん」と佐藤本部長に声をかけられて興味津々で触れてみたところ(写真2)、「さらさらしている」と通常では味わえない貴重な体験をさせていただきました(写真3)。病院を代表して、越智病院長からお礼の言葉が述べられました(写真6)。

そのあとで、貴重な南極の氷をたくさんの子どもたちに思う存分触っていただきました(写真4)。

広島大学は南極観測とは縁が深く、南極点に到達した藤原健蔵名誉教授をはじめ、1957年の昭和基地開設以降、本学教員や卒業生ら40人が参加しています。本学総合博物館の第一回企画展も南極がテーマでもあり、実際に南極の氷を目にすることができたことを感慨深く思います。

大変貴重なものを子ども達が身近に体験でき、楽しい時間を過ごすよい機会をいただきましたことを嬉しく思っております(写真5)。この場をかりて、心よりお礼申し上げます。

佐藤信彦本部長をはじめとする自衛隊広島地方協力本部の皆様、貴重な体験を子どもたちにさせていただき、ありがとうございました。

写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



第22回 広島大学病院「花火まつり」を開催



写真1

平成19年8月7日(火)第22回広島大学病院花火まつりを病棟北側玄関前駐車場で開催し、約2時間、多くの患者さんに夏の夕べを楽しんでいただきました(写真1)。



写真2

会場では、参加者の皆さんに南極で採取された氷を入れたお水が振舞われました(写真2)。この氷は自衛隊広島地方協力本部より、当院に入院している子どもたちに贈っていただいた貴重な氷で、「ピチピチ音がする」と何万年も前の空気のはじけだされる音に感動している声が飛び交いました。



写真3

会場には“智&竜二”のお二人が駆けつけてくださり花火まつりをより一層盛りあげてくださいました。お二人は、「川の詩」(水の都ひろしま「川のうた」優秀賞曲)を始め数々の歌を披露してください、その曲の中に、手話を使って患者さんと一緒に歌う場面もありました(写



写真4



写真5

真3)。

コンサートを終了お二人に、越智病院長より感謝状が贈られ、才野原看護部長からは花束が贈呈されました(写真4)。



写真6

続いて花火まつりが開催され、越智病院長と患者代表の子どもたちによる点火式が行われ(写真5)それを皮切りに職員が患者さんの花火に点火して回り(写真6)華やかな夏の夜空となりました(写真7)。また、会場に來られなかった患者さんにも見えるよう入院棟前では打ち上げ花火を行いました(写真8)。



写真7

つかの間のひと時でしたが、患者さんの思い出の一つになってくれたことと思います。来年も広島大学病院の夏の夜空を飾ることが出来ればと思います。

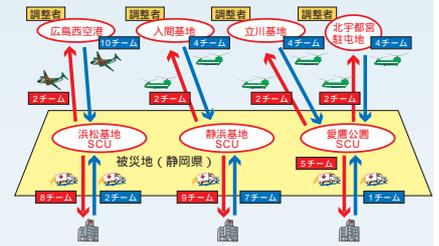


写真8

“東海地震総合防災訓練に参加” 広域医療搬送訓練

当病院の高度救命救急センターのスタッフは、9月1日(土)の東海地震による大規模災害発生を想定した広域医療搬送実働訓練に参加しました。この訓練は、多数の傷病者が発生した場合に、被災地域内では十分な医療を受けることができないため、傷病者を自衛隊機で被災地域外へ広域搬送を行うものです。

訓練は、東海地震により重症の傷病者が多数発生したとの想定で、静岡県内の三箇所が被災地内広域搬送拠点(SCU)に設定されました。政府はDMATを派遣し、被災地外での治療が必要な傷病者を選定、被災地外広域搬送拠点経由で受け入れ病院へ搬送するというものです。



(当日の)被災地3拠点(SCU)とDMATとの関係



いよいよC1輸送機到着の最終打ち合わせ 広島西空港滑走路にて



救命医療器具を見せていただきました



簡易的な縫合も出来るよう縫合セット一式 (ホギメディカル社提供)



空港内に設置された傷病者受け入れテント



DMATによる広域医療搬送訓練は、昨年の神戸空港に続いて、国としても2回目の取り組みでした。当日は曇り空で、薄日の射す蒸し暑い日でしたが、当病院のDMATは、大阪から福岡まで9チーム(計11病院)のDMATの受け入れ、飛行場との調整、搬送資機材の調整、傷病者の受け入れと病院搬送といった多岐に渡る業務を完璧に成し遂げました。



浜松基地より8名の傷病者を搬送したC1輸送機が広島西空港に到着



C1搬送された傷病者の確認作業



輸送機から慎重に傷病者を搬送する消防隊員



空港内に設置された救命テント前で再度、傷病者の氏名と様態を確認



テントで受け入れ傷病者の確認作業



受け入れ病院に搬送されるまでテントで応急処置



当院への搬送はヘリコプターと判断された



8名の傷病者すべてを病院で受け入れていただいたことを確認して訓練終了

当病院DMATチームは、浜松SCUから自衛隊輸送機で広島西飛行場へ搬送された8名の模擬傷病者に対し、必要な処置を施し、ヘリコプター等で病院に搬送する訓練を行いました。結果は良好で、災害などが実際に発生した場合、迅速な対応が可能と考えられました。

当院のヘリポートで行われたドクターヘリでの救命訓練風景

中日本航空(株)のご協力で新型ドクターヘリコプターの試乗訓練を行いました。広島県にドクターヘリが導入される日を当センタースタッフ全員が待ち望みながら訓練を無事終えました。



高度救命救急センター長の谷川先生より終わりのあいさつ

DMATの皆様暑い中、お疲れ様でした。この訓練での教訓を生かしてくださいね。

看護インターンシップ

7月30日、平成19年度インターンシップ開始式が広島大学病院入院棟のカンファレンスルームで行われました。総勢57名の学生さんが5日のうちの2日間、看護を体験されました。

インターンシップとは、臨床現場の看護師とともに看護活動を実施し、学生さん自身が適応力を判断する機会となって欲しいと、当院では、昨年度からスタートしました。



19年度インターンシップ開所式



体験した病棟スタッフと一緒に



血圧測定中



新生児室にて



病室からの廊下の様子



患者さんの髪を洗っている様子

ちょっと寄り道...

院内グルメ紹介

ご存知ない方も多いのですが、大学病院には安くておいしいものがたくさん揃っています。その一部をご紹介します。



喫茶

入院棟2F

平日のみ / 8:00 ~ 17:00

お勧めの栗オーレとホットケーキで「ホット」しませんか



清潔をモットーに



秋におすすめの栗オーレ。手に取った瞬間、まるやかな栗の香りがなんともいえません。

当店自慢の茶葉から抽出した味わい深いミルクティーです。

ロングセラー商品



一日中注文できるモーニングセット

ここでしか味わえない「ごま」ゆず」ドレッシングの販売もしております！



レストラン

入院棟2F

平日 / 11:00 ~ 19:00 土日祝 / 8:00 ~ 14:00



これだけ揃ってワンコイン!!

500円
ワンコイン
バイキング
11:00 ~ 14:00

もちろんデザートも日替わりメニュー。クロワッサンは焼き立てを提供しています。すぐになくなってしまいますので、お早めにお越しください。



売店

入院棟2F

平日 / 8:30 ~ 19:00
土日祝 / 9:00 ~ 17:00

秋におすすめの焼いも。信じられないほどのおいしさです。芋の種類も5種類あり、お好みに合わせてどうぞ！八天堂のお饅頭は、並べると半日で売り切れる超人気商品。しかも広島では、当院売店とバスセンターでしか販売していない限定商品。



スターバックス

外来棟2F

平日のみ / 7:00 ~ 19:00

平成19年3月広島大学病院内にオープン

ごあんない

広島大学病院の最新治療がわかる本

広島大学病院 編著



国内初 広島大学病院の治療を 症状別に1例1例解説

あなたのベストな治療法が見つかる!

医科51疾患

がん 26例
 脳疾患 4例
 心臓疾患 3例
 一般疾患 18例 /
 メタボリック症候群、C型肝炎、緑内障、
 アレルギー性鼻炎、胆石、膝・脊椎、
 うつ病、麻酔など

歯科19疾患

むし歯、歯周病、インプラント、義歯、
 審美歯科、矯正歯科、小児歯科、
 舌がんなど

A5判・832ページ **2,310円**(消費税込み)

書籍についてのご注文・お問合せは

(財)緑風会事務所
(広島大学病院内)

〒734-8551 広島県広島市南区霞1-2-3

財団あてにFAX、お電話または、Eメールにてご注文いただく場合は、送料は財団で負担します。

TEL.082-252-3520 FAX.082-252-3530

E-mail : hrfk@bronze.ocn.ne.jp

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/>

広島大学病院のホームページ

分かりやすく見やすいページづくりを心がけていこうと思いますので、引き続きご愛顧のほど、よろしくお願いたします。

ご意見やご感想を下記へお願いいたします。

広島大学病院 広報委員会(秘書室広報担当) 〒734-8551 広島市南区霞一丁目2番3号 Tel 082-257-5555 Fax 082-257-5074



地球環境にやさしい印刷方法で
作成されています。
E3PA(環境保護印刷推進協議会)
シルバークラウド